



十二支の由来

ある時、神様が動物たちを集めて、「お正月の朝、早く来たものから12番目の者をその年の大将とする」と、言いました。猫は、うっかりしていたので、ねずみに尋ねると、ねずみはわざと、次の日を伝えました。ねずみが牛のところに行くと、牛は、「歩くのがゆっくりだから早く出かけよう」というので、ねずみは牛の背中に乗りました。

朝になり、神様の御殿の門まで来ると、ねずみは牛の背中から飛び降りて「私が一番！」とちゃっかり言いました。そして牛が2番。次々とら、うさぎ、たつ、へび、うま、ひつじ、さる、とり、いぬ、いのししと順番に入り、その年の干支にしてもらいました。

猫はというと、次の日に行っても誰もいないので、門番に尋ねると、「顔を洗って出直してこい！」と言われました。猫が顔を洗うしぐさをするようになり、ねずみを追いかけるのは、この時からだそうです。



七草粥

お正月を過ぎて、7日の朝食に七種類の野菜を入れた粥を食べます。早春の野山に咲く若草を食べることによって、自然界から新たな生命力を得ることができ、無病息災で長生きできるといわれています。

また、七草には、消化を良くする成分やビタミンCが含まれているので、お正月のご馳走で弱り気味の胃を少し休めようという知恵から始まったともいわれています。

春の七草って？

せり・なずな・ごぎょう・はこべら・ほとけのざ・すずな・すずしろ



令和5年

1月の園だより



すいこう認定こども園

安心して預けていただける園となるために

新年あけましておめでとうございます

昨年もコロナウイルスは変異しながら、私たちの周りを漂っていました。コロナに罹患するお子さん、保護者の方もおられましたが、幸い重症化することもなく、感染が広がることもなく過ごせましたのは、日頃の手洗いうがいなど基本的な感染予防と、皆さんのコロナ対策への意識の高さだと思い、感謝しております。おかげさまでバザーやお餅つき等の行事にも、保護者の皆さんにご参加いただき、楽しく開催することができました。今後も油断できないコロナ感染症ですが、地域、園内の感染状況に合わせて、その時々に取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご協力をお願いします。

昨年は、他園のことですが、年度の初めから年長児が園を抜け出し、太田川の河川敷で亡くなっていたとか、通園バスの中に園児が置き去りにされ、熱中症で亡くなったとか、保育士が園児を虐待しており、調べると数多くの園で虐待の事実が発覚したなど、あってはならない園での事故、事件が相次ぎ、保護者の皆さんは、とてもご心配されていることと思います。同じように小さなお子さんをお預かりしているので、「どうしてこんなことが起こるの?」と、悲しい気持ちになると同時に「すいこうは、そんなことはないと言い切れるのか」と、それぞれのクラスで振り返りました。特に虐待に関しては、本人にはそんな気持ちはみじんもなくとも周りから見ると虐待していると捉えられることもあるかもしれません。ある保育士が、1歳児の子どもたちが仲良く遊んでいると思っていたのに、突然隣の子どもにかみついてしまいそうになり、とっさに「噛まないで」と大きな声を出してしまうこともあったと言いました。「外部の人が見たら大きな声を出している。乱暴な保育が行われているのでは…と思われたかもしれない。」とつぶやいていましたので、そんな時は、その子のそばに行き、「おもちゃをとられたから嫌だったね。噛みつきたい気持ちになったね。と、気持ちに寄り添った声かけをするといいね。」と話しました。子どもたちとの関わりの中で、危険を回避するためにとっさに大きな声が出たり、抱っこしていても



子どもがのけぞったりして逆さになったりすることはよくあります。のけぞった子どもは、けらけら笑って喜んでいきます。私は、それらが、不適切な関わりとは思いません。子どもたちは、たまに泣いて登園することはあってもほとんどの子どもは、笑顔で「おはよう」と言いながら登園し、乳児組さんは、担任の顔を見ると、嬉しそうに抱っこを求めたりしています。また、遊んでいる姿を見てもそれぞれの年齢に合ったあそびの環境の中で、小さい子は、大好きな先生やお友だちと自分のやりたいあそびを見つけて遊び、大きい子は、友だちと一緒に協力したり、工夫したり、考えたり、時には喧嘩をしたりしながら楽しく遊んでいます。楽しいあそびが展開されている中では、不適切な関わりはないと思っています。何より、私が大切に思っていることは、初代すいこうの園長に「保護者の皆さんは、自分の命に代えても惜しくない大切なお子さんをあなたに託して下さっている。そのお気持ちを思うと、しっかり応えていかななくてはなりません。」そして、「子どもの数は、命の数」と教えられたことです。このことを全職員に、事あるごとに伝えていきます。それでもお子さんの送迎の際、また園開放、アトリエボランティアなどを通して、園での様子をご覧になった時、何か不審なこととか、「あらっ?」と思ったことなどがありましたらどうか教えてください。その都度、職員全体で考え、対応していきたいと思えます。

園児がバスに置き去りにされた事件があった時、2歳児さんの保護者が、「すいこうでは子どもたちがお部屋に入るとき、先生たち同士で、今ピオトープに2人いるよ。お願いね。などと声をかけ合っている姿をよく見ます。だから、安心していきますよ。」と教えてくださいました。その思いにお応えできるよう、職員一同、取り組んでまいりますので、厳しく温かいまなざしでの見守りをよろしくお願いいたします。

今月は、幼児クラスの生活発表会があります。一人ひとりが、自分で選んだ役を自分なりに表現し、十分楽しんでくれることでしょうか。しっかり褒めて、応援してあげてください。

園長 上原玲子



鏡開き

1月11日は、鏡開きです。

お正月にお供えたおもちを割り、おしるこなどにさせていただきます。おもちを割るときに、一年の健康をお祈りすると元気に過ごせると言われています。園児の健やかな成長を願って、園でも11日には、おやつにおしるこをいただきます。

ある中学生のお話



日本教育新聞の11月28日号に「神奈川県公立中学校」の校長先生のコラムが掲載されていました。それは、その学校の生徒さん5人が下校中、トラックと自動車の事故に遭遇し、警察もまだ到着していないし、事故はセンターライン上で起きているし、帰宅ラッシュの時間帯ということで、大混乱になりそうと心配。そして、5人で手分けをして自分のバインダーに「この先、事故」と大きく書いて迂回することを案内したそうです。そのことが、次の日、地域の方々、バス会社などから感謝され、お礼の電話が入り、校長先生は、生徒さんたちに「こういうことはなかなかできないけれど、君たちはどうしてできたのか」と尋ねたそうです。すると、しばらく考えて、一人の生徒さんがぼつりと「理由があるのかな」と言ったと書いてありました。

このコラムを読んで、まさしくすいこうが求めている「自ら行動する子ども」「今、何をしなくてはならないか状況判断のできる子ども」の姿だと思いました。

すいこうを巣立っていく子どもたちの数年後に思いを馳せながら、読ませていただきました。